

ソーシャル図書室「bookHub」： コミュニティ指向の蔵書管理・書籍の貸し借りサービスの開発

成田 圭介[†] 岡崎 博樹[‡] 上林 憲行[†]

東京工科大学[†] 手仕事工房[‡]

1. はじめに

既存の Web 本棚サービスではユーザー同士のコミュニケーションが起きていないこと、大学研究室内や企業のオフィスの蔵書が管理されておらず活用できていないことの2つの問題があった。この問題を解決するためにサービス利用者同士が相互にコミュニケーションを促進する新たな場所として、書籍を中心としたソーシャル・ネットワークキング・サービス、蔵書管理システムを合わせた新しい形の O2O (Online to Offline) サービスを作ろうと考えた。

本研究では、大学の研究室や企業のオフィスが所有する書籍から、ユーザーが実際に貸し借りすることができる、ソーシャル図書室「bookHub」(<http://bookhub.jp>)を開発し提供を行った。

2. サービスコンセプト

bookHub のサービスコンセプトは以下の3つである。これらを組み合わせたサービスを開発した。(図1)

- ① 蔵書管理 (Web 本棚)
- ② 貸し借り (図書室)
- ③ コミュニケーション (ソーシャル)

1の「蔵書管理」は、大学の研究室や会社のオフィス、自宅などで所有する蔵書をサービス上の Web 本棚に登録し、閲覧可能にすることで蔵書を整理・活用させる。

2の「貸し借り」は、このサービスを図書館システムのように利用させ、単なる蔵書管理システムではなく、研究室やオフィスなどのスペースで今誰が書籍を持っているのかを管理し書籍の所在をはっきりさせる。このようなスペース内に仮想図書室を簡単に開設し、貸し借りはスペースにオフラインのコミュニケーションを生み出す。

3の「コミュニケーション」は1と2から得られるデータをもとにユーザー同士で貸し借りの履歴や書籍のレビュー情報などのユーザー個人のアクティビティを公開する。アクティビティはサービス外の Facebook や Twitter などの各 SNS に拡散させ、そこから、オンラインのコミュニケ

“bookHub: The community oriented new Social Library Service and Management System”

Keisuke Narita[†], Hiroki Okazaki[‡], Noriyuki Kamibayashi[†]

[†]Tokyo University of Technology, Ltd. [‡]Teshigoto-Kobo

ーションを促進させる。

研究室やオフィスの蔵書は誰にでも貸し出すことはできないため、貸し借りは図書室に登録されたメンバーのみが利用できる、クローズなコミュニティを作成する。また、オンライン上のアクティビティは全てのユーザーが閲覧可能であるため、オープンとクローズ、双方のコミュニケーションを生み出す。

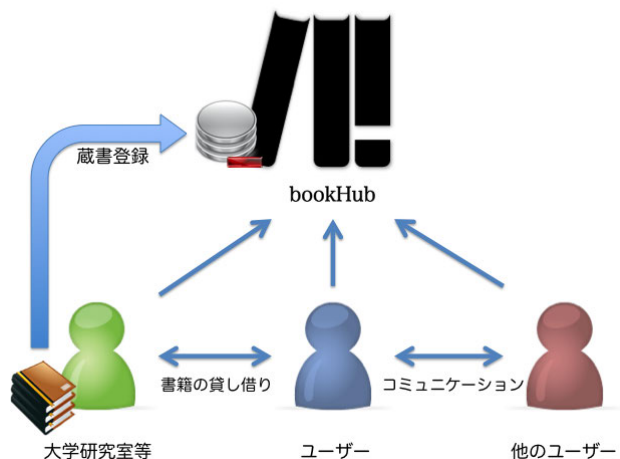


図1：サービスコンセプト

2.1. 類似サービス

本研究中に bookHub と同様のコンセプトを持つサービス「リブライズ」がリリースされた。本研究と同様に本棚があるコミュニティスペース、特にコワーキングスペースを対象にサービスを展開している。パソコンと USB 接続のバーコードリーダーと Facebook アカウントを利用し蔵書登録・貸し借りを実現し、コワーキングスペース内のコミュニケーションの促進を図っている。

2.2. メインターゲット

類似サービスとの差別化するため、本サービスのメインターゲットを大学に設定した。大学内には研究室を以外にも、教授個人やサークル、教室や施設などにも多くの蔵書があるが、筆者の所属する大学の図書館には登録されていない。これらの蔵書を眠らせることなく、学生達が活用可能な環境を生み出すため、大学内での利用を考え大学アカウントログインや学籍番号での図書室メン

バー登録などの機能の追加を行う。

2.3. コンセプトデザイン

本サービスの名称には図書館ではなく「ソーシャル図書室」を用いた。これは大きな図書館ではなく、小学校にあるような小さな図書室をイメージし、研究室など一室を図書室として扱うためである。各図書室管理者の名称を図書委員に見立て、メンバーを図書委員長や図書委員といった名称を利用し、コンセプトをつくっている。

また、グラフィックデザインも O2O サービスであることを意識し、現実の図書室で利用される図書カードや書籍に貼るシール、木目などを取り入れたデザインを行なっている。(図2)



図2：サービス画面

ビスに登録させるための端末のカメラを利用したバーコードリーダーであり、Web サーバーと連動させる。

3.2. サービス利用の流れ

サービスの全体の流れは以下のとおりである。(図3)

- ① 所有する書籍をサービスに登録
- ② 借りる側のユーザーは読みたい書籍を探す、サービス側でサービス利用者にレコメンデーションする、他のユーザーのアクティビティを見る
- ③ 興味のある書籍を発見する
- ④ 書籍のある図書室で書籍の貸し出し
- ⑤ 借りた書籍はサービス上や SNS アカウントでシェアする
- ⑥ 読み終えた書籍の返却
- ⑦ 読み終えた書籍の書評やコメント

書籍の貸し借りのタイミングでオフラインの直接サービス利用者同士で行うコミュニケーションを作り出す。また、登録した書籍のシェアやおすすめ、読んだ書籍へのレビューなどで作るオンラインのコミュニケーションの2種類コミュニケーションを構築している。

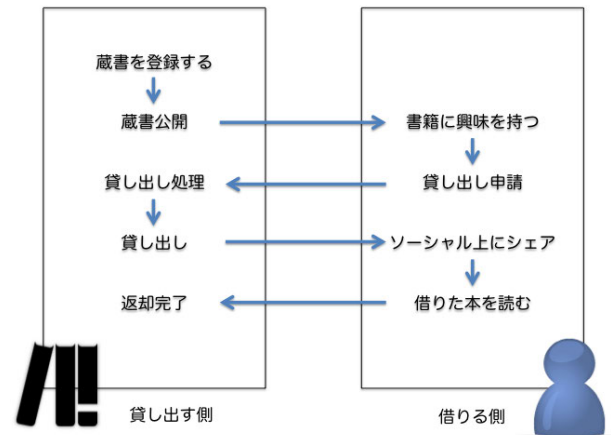


図3：サービスフロー図

3. サービスデザイン

3.1. サービス環境

このサービスは、Web ブラウザ上で動作する Web サービスである。これは誰にでも簡単に利用してもらえるサービスにするため、動作するインストール不要な環境を選択した。

また、図書室の開設のはじめには大量の蔵書を登録する必要があるが、パソコンからの入力では不便であるため Android アプリの開発を行う。この Android アプリは書籍の ISBN を読み込みサー

4. まとめ

本研究では、サービスを考案・開発しソーシャル図書室「bookHub」の提供を行った。これは最低限の機能を実装した α 版である。

いち早くリリースを行うために優先順位を下げた機能やリリース後に必要だと考える機能については、引き続き開発を行う。今後、より多くの人に利用してもらえるサービスとするため、改良を加えサービスのクオリティ上げ続ける。そしてサービスの発展を目指す。